

平成31年度 学校評価総括表 伊丹市立稲野小学校

教育目標		人間尊重を基盤として 豊かな心と健康な体をもち 主体性・連帯性のある子どもを育てる ーいきいき なかよくのびのびと 笑顔あふれる 稲野小学校ー						
重点目標		・「つけない力を明確にし、「ねらい」の提示、「ふりかえり」活動を工夫していく。 ・思考を深めるために、効果的にペア・グループ活動を取り入れていく。 ・「～したい」と一人ひとりが主体的に取り組むことができる授業づくりを進める。 ・「話す力」向上に向け、系統的に言語活動に取り組む。 ・自・他の意見をくまられるような場面設定を継続的にを行い「聞く力」をつけていく。 ・新しい教科「道徳」において、子どもたちの道徳性を養う授業づくりに努めていく。 ・あいさつ・トイレのスリッパ揃え・下足箱のくつ揃えに取り組む。 ・仲間づくりや相談しやすい関係づくり、関係機関との連携を図っていく。 ・計画的、継続的に体力づくりに向けた授業づくりに取り組む。 ・ICT機器の効果的な活用を図る。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりをすすめる。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
基礎・基本の徹底と授業改善	・基礎的、基本的な知識、技能を習得させる。	・朝学習(読書・複写・漢字・計算・スピーチ)の時間を確保する。	・朝学習の時間に基礎基本の学習を進めることができる。	B	・朝学習の時間を活用し、基礎基本の力を高めることができた。	・朝学習の内容を計画的に進めていく。 ・継続的に基礎基本の定着を計るため、反復練習を行う。	・継続して反復練習し、内容が理解できるようにするとともに、子どもたちがどうすれば分かりやすくなるのか、引き続き工夫して取り組んで欲しい。 ・本読みは基本であり、その理解度は読後に感想文を書かせることで更に深めている。 ・人の話をしっかりと聴くことができるよう、傾聴力を高めていって欲しい。 ・ICT機器の充実と活用を進めていって欲しい。	
	・反復練習のためのプリントを作成・活用し、基本事項の反復練習をする	・反復練習により、既習内容を確実に身につける。	・国語の本読みを毎日続け、つまらずに読むことができるようになる。		・計算・漢字など反復練習をし、基礎基本の力を身につけた。	・今後も本読みを大切にし、本文を大切に、内容理解につなげる。		
	・継続的に本読みに取り組ませ、適切に評価することにより理解につながる読みの力をつけていく。	・本時のねらいを授業の初めに確認し、授業の終わりに目標が達成できたか確認する時間を持つ。 ・どのよう振り返るか学年・学校全体で共通理解を図る。	・わからないことを自分から質問できるようになる。 ・児童のアンケートの「学習でわかりにくいことを、先生に質問しやすい」の項目で、肯定的評価が70％以上になる。		・継続的に本読みに取り組んだ。またその成果として授業での内容理解を深め、登場人物の気持ちを考え心をこめて音読することができた。	・「ねらいを教師主導ではなく、子どもたちの主体性を育むため、子どもたちに疑問からめあてを設定するようにする。」 ・振り返りにより子どもたちの理解が深まるよう書くタイミングや内容について研究する。		
	・子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育を推進する。	・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 ・パワーアップ研修などのより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。	・全ての教師が、年間10回以上授業を見る。		・児童アンケートでは「学習でわかりにくいことを、先生に質問しやすい」の項目で肯定評価が80％を超えている。	・来年度も授業参観の呼びかけを積極的に行い、多くの職員に授業参観し授業改善につなげる。		
学力の向上 思考力・判断力・表現力の育成	・「読む力」を向上させる指導法、教材を研究する。	・教材の本文を大切に読ませる。	・本文を根拠として読み取ることができる。	B	・発表のトライアングルを使って、自分の考えに対しての理由や根拠をもたせ、発表することができた。	・全学年が、発表のトライアングルを活用し、取り組みを徹底させる必要がある。 ・本文に振り返ることができるような発問を工夫していく。		
	・「話す力」を向上させるための話し合いの形態を身につけさせる。	・ペア、グループ学習の場を設定する。 ・スピーチの活動に取り組む。 ・教科を限定せず、様々な場面でスピーチの活動に取り組む。	・友だちの考えと比較しながら、自分の考えを深めることができる。 ・課題に対して自分の力や友だちと協力して解決しようとする姿が見られる。		・教科書教材や、朝の会など機会をみつけ継続的にスピーチに取り組むことができた。	・話す機会を継続的にもつことで、確実に子どもたちに力がついていくので、その機会をもつよう全職員共通理解を図る。		
	・「聞く力」を向上させる。	・聞いた後に質問をして、聞いていた内容を確認する。 ・自分の考え、友だちの意見を聞いて、変化したことを発表させる。	・友だちの話の内容をしっかりと聞き、理解することができる。 ・友だちの意見と自分の意見を比べることができる。		・ペアやグループ活動において、教師側がその目的を明確にするよう意識して取り組んできた。回を重ねるごとに、話すことには慣れてきているが、話を深めることには課題がある。	・「話を聞くための課題を明確にして、目的意識をもって児童がより聞くことに目的をもてるようにする。」 ・話を聞くための課題を明確にして、目的意識をもって児童がより聞くことに目的をもてるようにする。		
	・「書く力」を向上させる。	・自分の考えを持たせ、それを文に表す学習に取り組む。 ・学習でわかったことや振り返りを取り入れ、学習を積み重ねる。 ・授業の中で、比較・類推など思考する場面を増やす。	・自分の考えを持ち、文に表すことができる。 ・学習でわかったことや振り返りを文に表すことができる。 ・主張・根拠・理由を明確にして発表できる。		・まちがえることへの不安感があり、自分の意見をもつことが難しい児童もいる。 ・比較、類推の場面を取り入れた課題設定の工夫をした。 ・発表のトライアングルを活用し、主張・根拠・理由をもって考えをまとめることができるようになってきた。	・〇や×で答えられるような段階から自分の意見をもたせる経験積み重ね、段階的に意見をもつ内容をふくらませていくようにする。 ・今後も発表のトライアングルを活用し、論理的に考えをまとめ発表することを継続する。		
読書活動の推進	・「思考方法」をより多く身につけさせる方法を研究する。	・「読む力」を向上させる指導法、教材を研究する。	・友だちの話の内容をしっかりと聞き、理解することができる。 ・友だちの意見と自分の意見を比べることができる。	B	・友だちの意見を聞く際、あまり聞いていない児童もいる。	・その学年に応じた達成目標を明確にしてその目標を達成するように教師側が目的をもったペア活動を取り入れる。		
	・児童一人ひとりが主体的に学習に取り組む態度を育てる。	・学習課題を工夫する。 ・子どもを引きつける魅力的な課題設定を行う。 ・自分たちの課題が生まれる課題設定を行う。 ・習得した知識・技能を応用して発展した問題に取り組む課題設定を行う。	・課題に対して自分なりの考えを持つことができる。 ・「～したい」という主体的な態度で課題に向かうことができる。 ・児童のアンケートの「授業はわかりやすい」の項目で肯定的評価が90％になる。また、保護者からの肯定的評価が90％になる。		・子どもたちからズレを引き出し、主体的に取り組めるようにしたが、まだそのズレを生かし子どもたちと意見の共有は不十分である。 ・児童アンケートの「授業はわかりやすい」の項目で肯定評価が95％であった。また保護者の肯定評価は91％であった。	・今後も子どもたちからズレを引き出しそのズレを生かし、主体的に学習に取り組む学習内容が身につくようにしていく。		
	・読書活動を充実させ、読書力・読解力・思考力の獲得を図る。	・「読書の記録」を書く時間を設定し、活用する。 ・読書時間かせの時間を増やす。 ・週2回15分の「朝読書」を継続する。 ・家庭でも読書をするように呼びかけていく。 ・子どもたちのニーズを把握した上で、図書館の本を充実させていく。	・児童のアンケートの「読書をするのが、楽しい」の項目で、肯定的評価が85％以上になる。 ・1週間に少なくとも2冊は本を読む。		・「読書の記録」を書く時間をとるよう年度初めに提案してはいたが、実際に児童が必ず毎回書いていたわけではなかった。また、「読書の記録」の管理を各担任に任せていたため、実態の把握もできなかった。 ・児童アンケートの「読書をするのが楽しい」の項目の肯定的評価は90％であり、目標を達成することが出来た。	・「読書の記録」を図書室管理にする。また、図書の時間に必ず読書の記録を書き、貸出の際に学校司書に見せるようにする。 ・「読書をするのが楽しい」の項目で肯定的評価が85％以上になるよう、引き続き図書室の本の充実や、楽しく読書ができるような取り組みを増やしていく。		
	・豊かな心を育む道徳教育の推進	・豊かな心を育む道徳教育の推進	・他人に対しての「思いやり」と自分の「あきらめない気持ち」をもつ学校生活をおくることができ、学期に1回は冒険教育を行い、子どもたちに協力することの大切さを学ばせる授業をする。		・学年集会や校長先生の話をとるようクラスで話すなどを通して、子ども達に意識づけができた。 ・月目標を設定して、子ども達に声かけすることによって意識づけができた。 ・行事を通して、協力することの大切さを学ぶことができた。	・学年集会などを行い、全体で指導していることが大切。 ・月目標を暮らす絵でも話し合い、日常から意識づけていく。	・不登校の問題については、「地域の課題」としてとらえ、地域や専門家も協力してサポートできる仕組み作りが必要である。 ・相談室を引き続き活用して欲しい。 ・人の痛みが分かるよう、子どもたちの理解を深めていって欲しい。 ・子どもたちは100寿社会の一員となるはずで、健康で長生きして欲しいので、体力作りに大いに取り組んで欲しい。 ・いじめについては、「あってはならない」との思いで対応して欲しい。	
豊かな心・健康やかな体	豊かな心を育む道徳教育・情操教育の推進	・豊かな心を育む道徳教育の推進	・音楽会や図工展の活性化 ・低学年への音楽・図工の専科指導 ・「今月の歌」の取り組み ・作品等の廊下掲示 ・ICT機器を利用した、情操教育の充実	・音楽会や図工展を通して、個性や多様性を認め合うことができる。 ・素直に自己表現することによって、自分の思いを伝えることができる。 ・低学年からの系統的、継続的指導により豊かな感性を育てる。	B	・表現の幅を広げるための基本の習得する時間を確保することができた。(図工) ・表現する喜びを感じられるような課題設定ができた。(図工) ・音楽会の取り組みを通して、表現する楽しさや喜びを体験させることができた。(音楽) ・表現領域だけでなく、鑑賞領域の学習にも積極的に取り組み、音楽の豊かさを感じ取らせることができた。(音楽)	・課題によっては個人差、進捗差が大変顕著になるので、その差を少しでも埋めることができるような課題設定が必要。(図工) ・自ら意欲的に表現したり、工夫する場面、課題が必要。(音楽) ・低学年からの系統的、継続的な指導方法について検討することが必要。(音楽)	
	いじめへの対応	いじめへの対応	・日記やチェックシート等を活用し、子ども一人ひとりの状況とその変化を継続して把握する。 ・子どもと一対一で懸談する時間を設定する。(随時) ・毎日、児童のよいところを見つけてほめる。 ・休み時間の様子を把握する。	・「なやみや不安があるとき、だから(先生や友だち・親など)に相談できる」の項目で、肯定的評価が80％以上になる。		具体的な施策によって、重篤な「いじめ」の認知の事例はなかった。しかし、軽微な事例に対しては、認識に個人差があるため何が「いじめ」であるのか、国の基本方針に基づき教師が共通認識する。	いじめアンケートで把握した事例については、丁寧に聞き取りを行い、学年や生活指導部で共通理解をしていく。また、必要に応じていじめ対策委員会」において検討し、改善策を講じていく。	
	不登校への対応	不登校への対応	・保護者、担任、学校カウンセラーとの連携を深め、児童への働きかけを行う。 ・担任だけでなく、学年や全職員で情報共有し、共通理解を図る。 ・夏季研修会のテーマを「不登校」として取り組む。	・早期対応に努め、不登校児童を出さないようにする。		相談室があることで、なんとか登校できている児童もいる。その一方で、教師不在の場合の相談室の使い方および保護者や該当児童に対する相談室の意味づけや使い方について共通理解が必要である。	・「相談室担当」を生活部内の互選により決定し、校務分掌表に位置づける ①担当職員の児童への関わり方等に関する共通理解事項。 ②担当教員のシフト表作成。 ③担当教員と担任との連絡を密にする。	
	子どもの健やかな体づくりの推進	子どもの健やかな体づくりの推進	・自らすすんで体力を向上させようとする意欲を育てる。 ・体育施設の割り振り方の工夫や、学習内容を系統立てた「がんばりカード」などを用いて体力の向上を図る。 ・「わくわく業間タイム」を充実させる。 ・スポーツパッチの取り組みを保つ。 ・「パワーアップタイム」を充実させる。	・学年に応じた「がんばりカード」で自分の伸びを記録し、設定した目標を達成させる。 ・全員すすんで外で運動するようになる。 ・全てのクラスで、授業の初め5分間を体力向上の取り組みに充てる。		・全学年で頑張りカードを作成することはできなかったが、それに変わるワークシートなどの活用によって個人の成長や振り返りを記録することができた。 ・「わくわく業間タイム」や委員会の取り組みによって、外に出て運動することができた。	・体力を高める運動や主活動につながる動きを取り入れた「サーキットトレーニング」や「ドリルトレーニング」の推進を図っていききたい。	
開かれ信頼される学校園	・学校情報の積極的な発信	・「信頼される教師の育成」と「信頼される学校づくり」を推進する。	・ホームページを通して学校情報や学年からの情報を積極的に発信する。 ・「学校だより」、「学年通信」を充実させ、学校の情報を積極的に発信する。	・週に1回以上ホームページを更新し、日常の学校生活を伝える。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目で肯定的意見が90％以上になる。 ・保護者アンケートの「先生に、子どものことを相談できる」の項目で肯定的意見が85％以上になる。 ・「夏祭り」「ふれあい文化祭」など地域の行事等に教師がすすんで参加する。	B	・概ね達成できた。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目については肯定的意見が87％であり、概ね達成していた。 ・保護者アンケートの「先生に、子どものことを相談できる」の項目については肯定的意見が83％であり、概ね達成できた。 ・地域の行事等について教師が参加し、地域と連携を図ることができた。	・ホームページについては、今後も様々な情報を保護者や地域の方にとって分かりやすく発信をしていきたい。 ・児童や保護者の話を丁寧に聞くなど、保護者にとって子どものことを相談しやすい関係づくりに努めていきたい。 ・働き方改革にも留意しながら、地域との連携を図っていききたい。	・今後も継続して取り組んで欲しい。

・全体的な評価はBであるが、課題の部分についてもどうすればさらに課題解決できるのか、今後も引き続き話し合っていきたい。
・自分は最も大切であるが、他の人たちがいて支えられていることに気づき、他者も愛する子に育って欲しい。
・今後、それぞれの項目においてAがつけられるよう期待している。
・ICT機器の活用やALTの活用を図っていくことで、教員がより人間教育に重点をおけるようにしてはどうか。

次年度に向けた重点的な改善点
・主体性を育む「ねらい」の提示、理解を深める「ふりかえり」活動を工夫していく。
・思考を深めるために、意図的にペア・グループ活動を取り入れていく。
・課題を明確にし、目的意識を持足せることにより「聞く力」をつけていく。
・ICT機器を効果的に活用し、授業の充実をはかる。